

木造住宅密集地域での事前復興まちづくり - 地域復興訓練の成果 -

2023/1/16 市古太郎 (都立大学)

1.お話しする内容

- ・豊島区の事前復興まちづくり -11年間で8地区-
- ・【復興まちづくり方針】の訓練成果例：東池袋四五地区
- ・【時限的市街地デザイン】の訓練成果例：南長崎四五六地区
- ・【くらしとまちの営み方針】の訓練成果例：長崎四五六地区

2.豊島区の事前復興まちづくり -11年間で8地区-

(1)豊島区での事前復興まちづくりの展開 (2009年度～)

- ・2009年度の上池袋地区をスタートに、2019年度の東池袋四五地区まで、全8地区で「震災復興まちづくり訓練」を実施。2020, 2021年度はコロナ禍で中断中。
- ・対象は池袋駅をぐるっと取り囲むように広がる「木造住宅密集地域」。
- ・東池袋や雑司ヶ谷など、多くの地区で「防災まちづくり」が1980年代中頃から取り組まれてきた経緯をもつ
- ・訓練成果は<事前>復興まちづくり計画であり、それは次の三点から構成される
 - 1) 空間計画としての復興まちづくり方針
 - 2) 時限的市街地の空間デザインと運営プログラム
 - 3) 地域主体のくらしとまちの営み方針。

Ref.市古太郎(2020) 木造住宅密集地域を対象とした復興まちづくり訓練で創発される<事前>復興まちづくり計画の意義と可能性, 日本都市計画学会論文集, Vol.55, No.3, pp.910-917

(2)豊島区での震災復興まちづくり訓練の全体プログラム例 (2014年雑司ヶ谷)

- ・第1回(5/25)まちを歩いて被害をイメージする(まち点検, マップづくり)
- ・第2回(6/29)被災後の住まいや生活を確保する(復興問題トレーニング)
- ・第3回(9/28)復興まちづくり方針を検討する(模擬説明会+意見書づくり)
- ・第4回(11/30)復興手順と復興まちづくり計画を考えよう(復興ワークカフェ)

※第1回の前に「ガイダンス」として阪神復興まちづくりの学習会を開催。また第4回終了後の12/14に地域報告会開催

※「復興方針職員 Project チーム」を設置し4回の訓練と並行して Project 会議をもつ。

3.<事前>復興まちづくり計画【復興まちづくり方針】の訓練成果例：東池袋四五地区

(1)市街地特性：関東大震災後の木密市街地化と戦後防災まちづくりのトップリーダー

- ・池袋駅東口から直線距離で800m。サンシャインシティの二街区先。
- ・IkeSunParkが2020/12月に開園。元は大蔵省造幣廠。
- ・1986年東池袋四・五丁目まちづくり協議会が「まちづくり計画」を策定(「防災」とは入っていない)
- ・2020年度末で、防災広場13箇所、コミュニティ住宅1棟、防災生活道路249m、建て替え助成196戸(豊島区居住環境総合整備事業評価委員会報告書, 2021/3月)

- ・2012年に不燃化特区，2014年に都市再生緊急整備地域に指定。池袋駅の開発ポテンシャルを受けて，都市計画道路81号線整備と市街地再開発事業を施行（東京都の木密重点整備地区として唯一の事例）。

(2)【復興まちづくり方針】としての成果：1986修復型まちづくり計画の再確認と再編集

- ・「みち・いえ・ひろば」改善の修復型思考を継承しつつも，焼失地を中心に，土地区画整理事業と市街地再開発事業を提案。現道幅を基本とした幅員6mの防災生活道路
 - ・商店街再生ゾーン：店舗が住宅に変容しつつも，日之出商店街を歩行者優先道路と位置づけ，再生していく。
 - ・既存の「辻ひろば」を集約した公園・広場の整備
 - ・低コストの平常時利用から非常時の「みんなのひろば」
- ※木密ジェントリフィケーションと修復型まちづくりの脱構築!?

4.< 事前 > 復興まちづくり計画【時限的市街地デザイン】の訓練成果例：南長崎四五六地区

(1)市街地特性：環六（山手通り）沿道市街地（cf.東中野，渋谷本町）

- ・1915年西武池袋線開業。関東大震災を経て，1924年に椎名町駅開業
- ・1930年代に耕地整理事業。アーティストが住みつき「池袋モンパルナス」とか「アトリエ村」と呼ばれる。戦後は「トキワ荘」
- ・1994年から木密まちづくり開始。阪神淡路大震災後から木密事業導入。
- ・「南長崎はらっぱ公園」。1999年から地域住民が会をつくってまちづくり提案。2010年7月にオープン。「南長崎はらっぱ公園を育てる会」。夏の花火大会では親子連れて大賑わい。地域の防災まちづくり活動で育ててきた防災公園。面積0.57ha。マンホールトイレ，ビオトープ。

(2)【時限的市街地デザイン】としての成果：育ててきた防災公園の避難生活期の活用イメージ

- ・南長崎はらっぱ公園と時限的市街地のデザイン：近隣の救援センター（南長崎スポーツ公園）と連携しつつ，直後の避難生活空間（テント村）および，まちの復興拠点としての時限的市街地プログラム
- ・地域でアトリエ・オフィスを構える専門家／地域在住の専門家と地域組織をつなぐ。
- ・職業・専門性を自然に前面に出したカタチでの地域でのネットワークづくり
- ・街区公園（概ね0.25ha以上）が存在すれば空間デザインゲームを通して，①地域復興本部の空間イメージ，②発災からのシークエンス・デザイン

5.< 事前 > 復興まちづくり計画【くらしとまちの営み方針】の訓練成果例：長崎四五六地区

(1)市街地特性：環六（山手通り）沿道市街地

- ・西武池袋線を挟んで南が南長崎，北に長崎地区
- ・2014年に東京都不燃化特区指定。特定整備路線（補助172号線および補助26号線）と沿道まちづくり
- ・駅前および，まちなか商店街のにぎわい。
- ・多様な家族構成が暮らすまち，その生活を支えている福祉・医療・保育・教育サービス

(2)【くらしとまちの営み方針】としての成果：私たちの街らしい復興ってなんだろう

- ・私たちの街らしい復興ってなんだろう!? (健康が維持できる, 大事なサロン活動, 商店街がある, 子どもが伸び伸び遊べる, などなど)
- ・保育所・高齢者福祉施設・区民ひろばのこれまでの交流活動実績とネットワークを活かせないか.
- ・小学校での放課後子ども教室のつながりが発災時に活かそう. 翌日以降は力を貸してくれる保護者もきつという.
- ・個店での対面やりとりや界隈の魅力を災害時にも回復させたい.

6.地域資源を再認識し, まちづくりを促進する協働復興模擬訓練

(1)生活視点の「災害への不安のつぶやき」とまちの資源に基づいて, ワークショップを組み立てる.

- ・まちづくりの視点からの「資源」とは?・・・建造空間・風景・人・営み,,,
- ※<事前>復興まちづくり計画の3つの柱の一つである「地域主体のくらしとまちの営み方針」
 - ・お茶会や居場所の回復:被災地回復支援で実施される「場づくりサロン」との共通点
 - ・平時のまちの営みと通底する生活復興の課題

(2)効果的な協働復興模擬訓練をデザインするために

- ・復興まちづくり訓練の Output と Interim Outcome, Outcome を区別したい.
- ・訓練手法は10年以上の現場実施と改善が図られており, それなりに「こなれた」手法になっている.
- ・一方で点検コース設定や生活回復カードゲームの設問文編集, 時限的市街地デザインゲームにおける敷地模型作成など, 企画運営支援(シンクタンクや大学研究室の力を借りる)は不可欠.

(3)外部資源との接続のデザイン

- ・社会福祉協議会のCSWスタッフや地元NPO/NGOなど, 災害時の市民ボランティア・コーディネート主体とのネットワークづくりは今後, ますます大事なテーマ.

(4)事前復興まちづくりを通した「修復型まちづくり計画」の再構築を

- ・東京都「都市づくりのグランドデザイン」2017
 - 「木造住宅密集地域が解消された魅力的な住宅市街地・・・木造住宅の良さや, 路地の雰囲気を生かしたまちとして再生しています」
- ・木密での「新しい都市型住宅 Project」の提案・事業化を.
- ・みち・いえ・ひろばの渾然一体のデザイン提案と事業化を.